

### Q37a すざく衛星による銀河面からのX線放射スペクトル

山内茂雄(岩手大人社)、海老沢研、村上弘志、高橋忠幸、江副祐一郎(宇宙研)、田中靖郎(MPE)、千田篤史、馬場彩(理研)、小山勝二(京大理)、深沢泰司、水野恒史(広大理)、常深博(阪大理)、高橋弘充(東大理)、幸村孝由(工学院大)、Suzaku team

銀河面から点源に分解できない拡がったX線が放射されていることが発見され、日本のてんま衛星の観測で高電離した鉄からのK輝線が発見されるにいたって、これが数千万度の温度を持つ高温ガスからの放射であることが明らかになった。しかし、銀河系の重力で閉じ込めておくことのできないこの高温のガスの起源については未だよくわかっていない。

すざく衛星は、過去にChandra衛星で長時間観測が行われ、すざく衛星の検出限界以下の点源がよく分解されているfield(銀経28.5度)を100ks観測した。すざく衛星の低バックグラウンドと大面積化のおかげで、6-7 keVのエネルギー領域にある鉄からのK輝線領域、および10keV以上のエネルギー領域で精度のよいスペクトルを取得することができた。本講演では、鉄輝線を中心に拡がったX線放射のスペクトル解析の結果を報告する。